

第18回 日本社会福祉学会大会フォーラム

アジア介護・福祉教育研修センター の活動報告

広島国際大学

名誉教授 久保田 トミ子

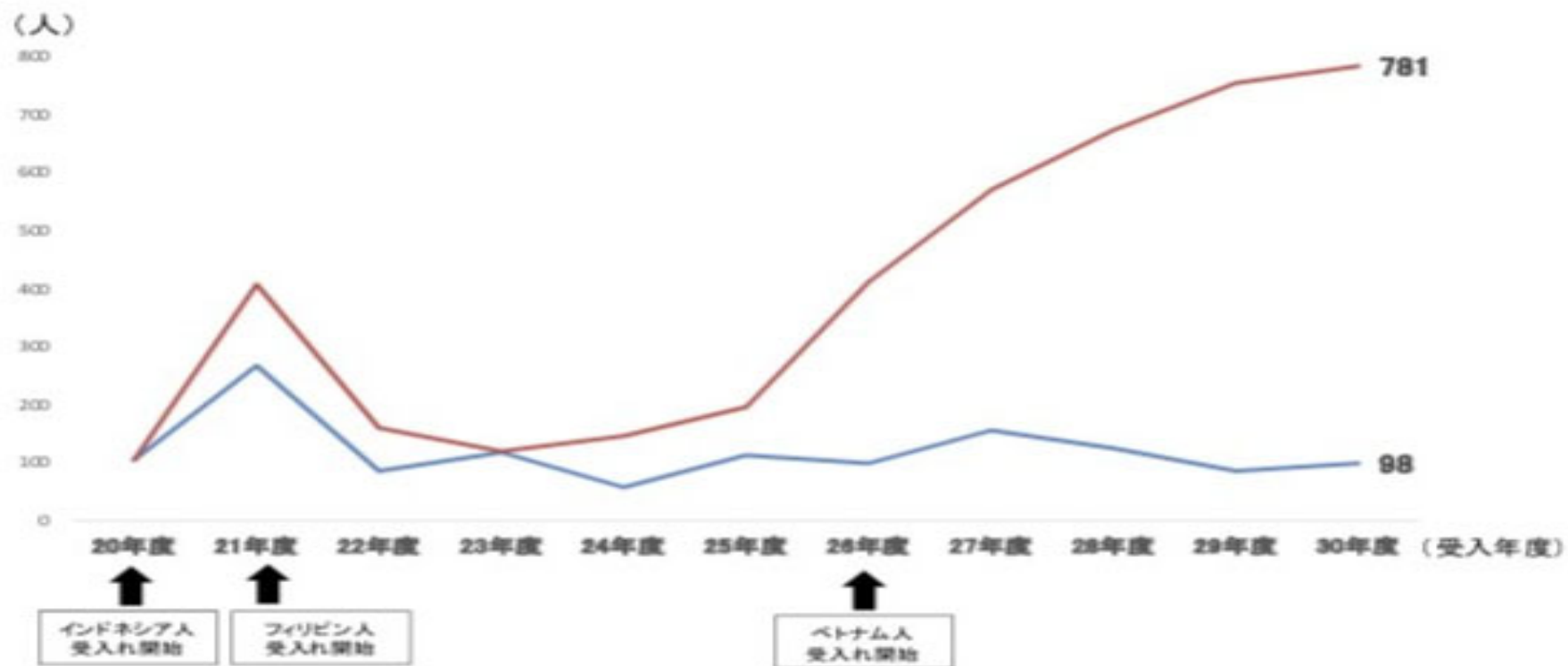
(アジア介護・福祉教育研修センター長)

アジア介護・福祉教育研修センター設立の背景

- 1987年 社会福祉士及び介護福祉士法の制定
- 1988年 全国25校で介護福祉教育が開始
- 2000年 介護保険制度の開始（介護人材の需要増大）
- 2008年 EPA（経済連携協定）に基づく介護福祉候補者（インドネシア1期生）の介護導入研修の指導
- 2016年11月 外国人技能実習制度の改正：職種に介護が追加
- 2017年3月 「アジア介護・福祉教育研修センター（ACT：Asia Carework Training center）」設立
- 2017年9月 介護福祉士資格者の外国人の就労可能
⇒ 福祉現場におけるグローバル化への対応の必要性

EPA看護師・介護福祉士候補者受入れ人数の推移 (インドネシア人・フィリピン人・ベトナム人)

平成29年度までに看護師候補者1203名、介護福祉士候補者3529名を受入れ。
平成30年度受入れは、看護師候補者98名、介護福祉士候補者781名の見込み。



(※) 平成30年度受入れ人数は見込み数。

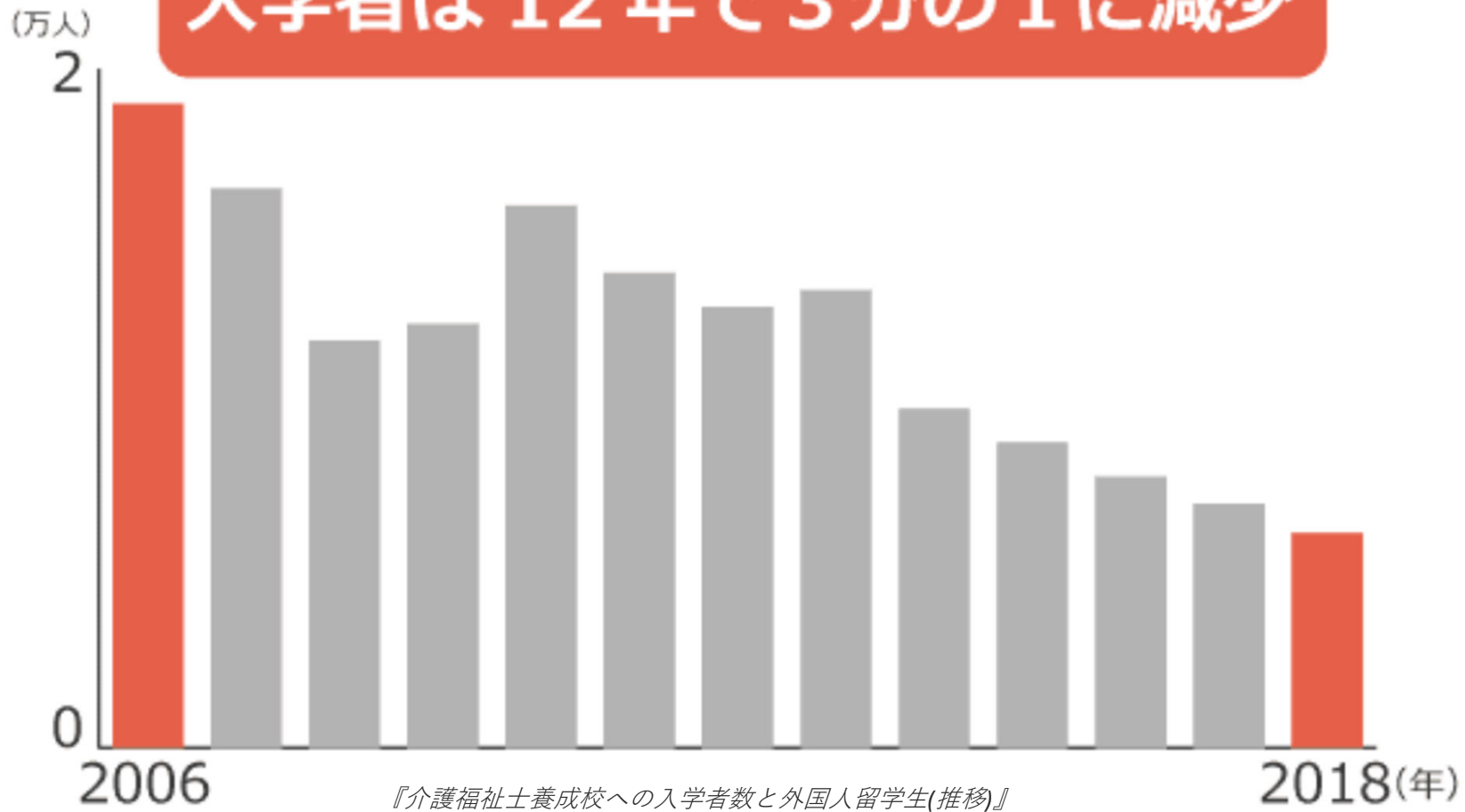
近年の介護福祉士養成校の定員・入学者数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
養成校数	401	396	386	375	347
入学定員数	16704	15891	15506	14387	13619
入学者数	7752	7258	6856	6982	7042
外国人	257	591	1142	2037	2395
定員充足率	46.4%	45.7%	44.2%	48.5%	51.7%

《 介養協調べ 》

介護福祉士養成校の入学者推移

入学者は 12 年で 3 分の 1 に減少



近年の養成校入学者数の推移



介護福祉士養成施設への入学者数と外国人留学生

(平成 26 年度から令和 2 年度)

年度 (平成、令和)	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	元 年度	2 年度
養成施設数 (課程)	406	379	401	396	386	375	347
入学定員数 (人)	18,041	17,769	16,704	15,891	15,506	14,387	13,619
入学者数 (人)	10,392	8,884	7,752	7,258	6,856	6,982	7,042
うち新卒者等			6,060	5,360	4,847	4,180	3,936
うち離職者訓練受入数	1,911	1,626	1,435	1,307	867	765	711
うち外国人留学生数 (人・国数)	17 (5)	94 (9)	257 (14)	591 (16)	1,142 (20)	2,037 (26)	2,395 (20)
定員充足率 (%) [全体]	57.5	50.0	46.4	45.7	44.2	48.5	51.7

(注) 養成課程数は募集停止校を含む。

外国人留学生の主な出身国

※平成 26 年度：中国 12 人、ベトナム 2 人、台湾 1 人、フィリピン 1 人、ラオス 1 人

※平成 28 年度：ベトナム 114 人、中国 54 人、ネパール 35 人、フィリピン 28 人、ほか 10 か国から 26 人

※平成 29 年度：ベトナム 364 人、中国 74 人、ネパール 40 人、フィリピン 35 人、韓国 23 人、ほか 11 か国から 55 人

※平成 30 年度：ベトナム 542 人、中国 167 人、ネパール 95 人、インドネシア 70 人、フィリピン 68 人、スリランカ 47 人、ミャンマー 34 人、インド 33 人、韓国 31 人、モンゴル 19 人、カンボジア 12 人、ほか 9 か国から 24 人

※令和元年度：ベトナム 1,047 人、中国 212 人、ネパール 203 人、フィリピン 163 人、インドネシア 106 人、

ミャンマー 99 人、スリランカ 95 人、韓国 28 人、モンゴル 18 人、ほか 17 か国から 66 人

※令和 2 年度：ベトナム 1,015 人、ネパール 304 人、中国 285 人、フィリピン 274 人、インドネシア 153 人、ミャンマー 110 人、

スリランカ 93 人、ブータン 42 人、モンゴル 29 人、バングラデシュ 22 人、ほか 10 か国から 68 人

(上記は日本介護福祉士養成施設協会調査による回答校の集計値)

日本人向けプログラムを開発した背景と研修内容

- 研修目的：アジア諸国の福祉現場の指導者に「日本式 KAIGO」の指導を行うことができる指導者養成
- 研修内容：異文化を踏まえた視点で介護教育指導ができること①異文化理解②介護教育方法：研修計画の作成（シラバス）・模擬指導（模擬授業）
- 実施時期：8月～10月の週末、全7日間（50時間）

日本人プログラムの実績

- 日本の介護・福祉現場の指導者養成研修プログラム
 - 2017年：受講者8名（神奈川・愛知・三重・広島・山口）
 - 2018年：受講者10名（三重・広島・島根・山口）
 - 2019年：受講者8名（京都・三重・広島・山口）
 - 2020年：受講者8名（三重・広島・山口）
 - 2021年：受講者5名（三重・広島・山口）
- 指導者のための基礎介護技術講習会（2017年のみ）受講者8名
- 介護過程の展開（2019年のみ）受講者9名



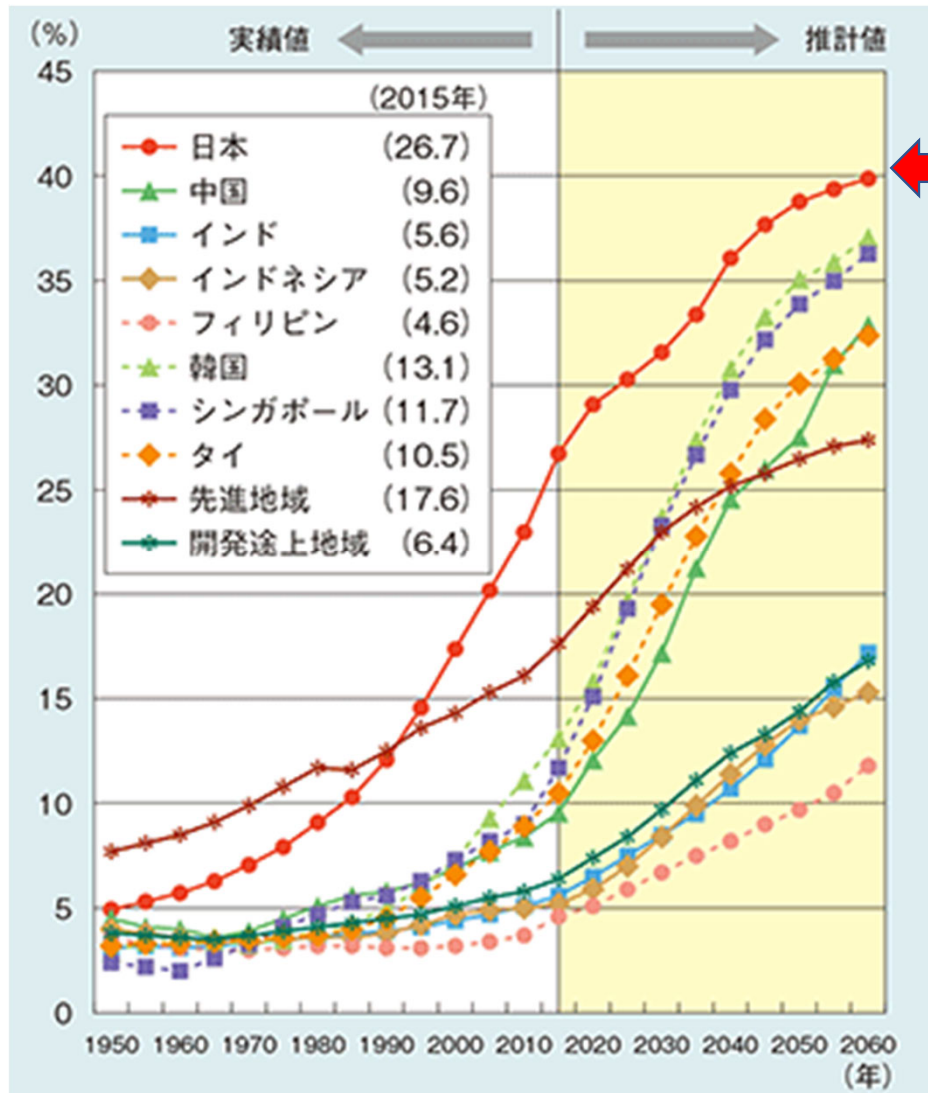
JAICA中国での演習

受講生による
模擬授業



広島国際大学ACTセンターHPより

アジアにおける高齢化率の推移



日本は

- ✓ 1970年に高齢化社会
- ✓ 1994年には高齢社会
- ✓ 2007年には21.5%と超高齢社会
- ✓ 2016年は27.3%

⇒ 今後は2025年は約30%

⇒ 2060年には40%

アジア全体の人口増加は2050年でストップ。

東アジアにおいては、今後ハイペースで高齢化が進む予測。

外国人向けプログラムの開発背景と内容

- 研修目的：日本の福祉制度や介護、リハビリテーション等の紹介と介護・福祉現場の視察を通じて、アジア諸国で「日本式KAIGO」に基づいた介護を実践するための知識や技術を修得

※研修内容、期間は受講希望側の要望に応じて実施

- 研修内容（台湾：中台科技大学の例）：①日本の高齢者福祉制度の理解、②「日本式KAIGO」の実践、③日本の福祉施設の見学、④日本文化の理解（華道、茶道、浴衣の着付け）

2017・2018年度 ACTセンター 研修等受け入れ実績

	日時	期間	訪問者	内容
1	2017：9/3-9/9	7日間	中台科技大学	短期研修
2	2018：4/3	1日	慈済科技大学	施設見学・研修依頼
3	5/1	1日	一般財団法人国際介護協会	施設見学
4	5/23	2日間	永椿滋恩养老产业发展有限公司	施設見学・研修依頼
5	6/18	1日	ロングライフHD株式会社・AOTS	インドネシア：介護資格制度導入にかかわる企画について
6	7/8-7/14	7日間	方正外国語学校 高校生6名	「日本式KAIGO」短期研修
7	7/28	2日間	インド日本語学校：日本海	施設見学・研修依頼
8	8/11-8/13	3日間	青島大学健康教育学院	施設見学・研修依頼
9	8/20	1日	インド中高一貫校	施設見学
10	8/22	1日	介護ヒロシマ協同組合	施設見学・研修依頼
11	11/29・30	2日間	介護ヒロシマ協同組合	「日本式KAIGO」短期研修
12	12/12・13・14	3日間	インドネシア政府・大学	介護福祉士制度導入研修
13	1/15-1/19	3日間	青島大学健康教育学院	留学相談
14	3/19-3/21予定	3日間	インド日本語学校：日本海	研修依頼、留学相談

2018年度～2020年度 ACTセンター 教員派遣等実績

	日時	国	内容
1	2018年 5/10-5/13	中国	第10回世界養生大会
2	5/17-5/20	中台科技大学	2018 第十回国際学術検討会 予防興延緩失能的 楽活憩享照護策略
3	7/15-7/18	インドネシア ジャカルタ	インドネシア政府へ「介護福祉の資格制度、キャリア アップ、介護保険等」説明
4	9/18-9/21	ベトナム ハノイ	JICA草の根協力支援型申請：ハノイ医科大学看護学 部，ティエンドウック高齢者ケアセンター打ち合わせ，JICAハノイ訪問
5	10/26-31	インド	インドにおける日本語教育と介護の教育現場の視察
6	2019年 12/6-9	インドネシア ジャカルタ	インドネシア政府・インドネシア大学等・福祉関係 者と介護福祉士資格制度創設の意見交換
7	2021年 3/19	インドネシア ジャカルタ	コロナ感染拡大のためZOOM会議 介護福祉士資格制度の認定許可

インドネシア政府関係者・インドネシア大学および他大学・福祉関係者：広島国際大学にて



掲載許可済み

今後の課題

- 日本の人口減少社会、少子高齢化の中で介護人材の確保が困難（全産業における人材不足）
- 介護現場のグローバル化が急速に進む状況
- 日本の地理的・文化的特徴（排他的）の中で異文化を理解し、共生社会をどのように実現するか
- 異文化交流を行う中での、相互理解の促進
- ダイバーシティ：多様性を受け入れる意識改革
- 「日本式KAIGO」の魅力をアジア諸国に発信